

教育研究業績

2024年 5月 1日

氏名 大賀明子

研究分野

学位

母性看護学 看護教育学 助産学

教育学修士(明星大学)・看護学博士(山梨大学)

研究のキーワード

育児支援 父親と育児 母乳育児 いのちの教育 母性看護学教育 看護とホスピタリティ

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践		
1) 学内Web・電子メディアを用いた教材の公開	平成17年3月～現在	授業の際に配布した資料および定期試験で実施した問題をPDF形式のファイルとして作成し、学内専用のLMS上にアップロードし、学生各自がダウンロードして活用できるようにした。
2) 母性臨床看護学習における「妊娠・産褥経過表」の課題	平成10年4月～現在	「妊娠過程」「産褥過程」に生じる生理的な変化や異常、そしてそこで必要な指導や援助を経過を追ってまとめ、長期休業中に取り組む課題とする。
3) 母性看護学臨床実習における病院施設以外の場で実習を行う試み	平成9年5月～平成20年	従来の病院内受持看護学実習にとらわれず、学生の主体的な企画と実施を求める施設以外での実習は、学生の母性看護学に対する興味を喚起し、母性看護学の対象理解を深めた
4) 発展的学習法を用いた看護学実習指導	平成元年5月	小児看護学実習指導において①既存の知識・技能をもとに受け持ち児に接近し、その範囲の中で行なえる援助を試みる。②子どもに対しての働きかけから子どもの反応を捉え、その児の個別性に気がつく。③捉えた個性から工夫して援助を行なう。という小児看護領域の得た3つの局面を持つ発展的学習に関する研究成果を根拠とした指導。
2. 作成した教科書、教材		
1) 海外フィールドワーク活動報告書	平成19年、23年、26年	横浜市立大学が実施した「海外フィールドワーク支援プログラム」への企画として応募・採択されたベトナムでの研修報告
2) 看護学総合セミナー集録	平成12年～16年、27年	看護学総合セミナーや卒業研究にて提出された論文の製本
3) 模擬胎便教材	平成13年～	新生児の模擬胎便を作成支援集授業に使用
4) 講義用補助教材	平成10年4月～	ワークブック形式の講義用配付資料とPPT資料
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
1) 文部科学省大学設置認可基準	平成20年12月	平成21年4月開設の西武文理大学看護学部看護学科、母性看護学教授の資格ありとして認可
2) 西武文理大学看護学部学科長	平成31年4月	それまでは学科長学部長兼任であった
3) 西武文理大学看護学部学部長	令和3年4月～現在	第3代学部長
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 日本助産評価機構 アドバンス助産師認定	平成28年12月	(認証番号21-0202537) 2026年12月まで有効(2021年更新)
5 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1. 資格、免許等		
看護師免・助産師免許/受胎調節実施指導員・保健師免許	昭和55年・56年・63年	受胎調節実地/東京都
アドバンス助産師/グリーフケアアドバイザー1級	平成28年/平成29年	(認証番号21-0202537) 2026年12月まで有効(2021年更新)/(認定番号17-0202009)
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
新生児蘇生法「専門」コース修了認定	令和2年8月	(認定番号A-15-42734) 2026年8月まで有効

J-CIMELSベーシックコース修了 看護教員養成課程修了	平成29年 昭和60年3月	(認証番号No171007-B-05) 日本看護協会研修学校		
4. その他	令和2年7月	NPO法人さやま保育サポートの会代表理事		
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1. 新版助産師業務要覧第4版Ⅱ実践編2024年版	共著	令和3年1月	日本看護協会出版会	日本看護協会監修、福井トシ子編集、大賀明子(4章4 地域母子保健におけるケア1家族ケア) P126-134 助産師の業務・身分・倫理綱領、マタニティサイクルにおける業務、リプロダクティブ・ヘルスにかかわる業務、活動場所の特性と業務、助産師の管理業務・教育、助産師業務改善の取り組みと職能団体の役割などを解説。第8章助産師の教育E新人研修の項を担当
2. 新版助産師業務要覧第3版Ⅱ実践編2021年版	共著	令和3年1月	日本看護協会出版会	
2. 新版助産師業務要覧第3版Ⅱ実践編2020年版	共著	令和元年11月	日本看護協会出版会	
2. 新版助産師業務要覧第3版Ⅱ実践編2019年版	共著	平成30年11月	日本看護協会出版会	
2. 新版助産師業務要覧第3版Ⅱ実践編2018年版	共著	平成29年11月	日本看護協会出版会	
3. 新版助産師業務要覧第2版Ⅱ実践編□	共著	平成24年1月	日本看護協会出版会	
4. 新版助産師業務要覧増補	共著	平成23年1月□	日本看護協会出版会	
(学術論文)				
1. 妊婦の体重管理に関する文献検討(学会シンポジウム2次抄録・依頼稿)	単著	平成31年(2019年)	日本周産期・新生児医学会雑誌 54巻2号434, (2018. 06) 54巻5号(学術集会記録号) P1310-1313 (2019. 04)	平成28年度厚生労働科学研究「妊産婦及び乳幼児の栄養管理の支援に関する研究」(研究代表者: 楠田聡)の分担研究として、おこなった妊娠中の至適体重増加量に関する関連文献の検討結果を示した。
2. 地域子育て支援施設実習を組み入れた母性看護学実習の教育プログラムの効果—学生の長期的な視点を育むための試み—(査読あり・研究報告)□	共著	平成28年(2016)	母性衛生、56巻4号. 667-676. 2016	地域子育て支援施設実習を組み入れた母性看護学実習の教育プログラムにより、学生が学んでいることを明らかにし、教育プログラムの効果を検討した。唐田順子, 大賀明子, 畑野花奈.
3. 子どもの年齢別の父親からとらえた父親になっていくことの検討—妊娠期から学童期までの父親経験や認識をとおして—(本誌右)	単著	平成27年2015年	山梨大学(博士論文)	パートナーの妊娠期からこどもの学童期までの間に、男性が父親としての経験していることや認識に関する実態を横断的に調査し、その結果をつなぎ重ねることで父親になっていくプロセスを考察した。
4. 産後早期退院の条件に関する選好と支援体制—医療職種別の視点から—	共著	平成23年2011年	横浜看護学雑誌4巻1号. 71-77	産後早期退院の条件を探るため、「3日目退院の条件」を設定し、複数条件の組合せ(退院後の支援、児の体重、血清ビリルビン値、育児技術到達度)について、順序型回答法を用いたコンジョイント分析を行った。坂梨薫、勝川由美、白井雅美、鍋田美咲、大賀明子、永井祥子
(学会発表、講演など)				
1) 全学共通教育における初年次からの地域志向教育～「災害と地域づくり」の成果と課題～	共著	令和4年8月2023年	日本看護学教育学会 第33回学術集会交流セッション	全学共通教育科目に新たに「災害と地域づくり」を開講し、2年間が経過した。教育方法上の課題には、初年次履修生が多く所属学部も異なるために協働や主体的な参加姿勢が弱いこと、防災・減災に関する興味を地域貢献・地域包括ケアへとつなげていくこと等について定見交換を行った。
2) 看護実践に求め・期待するホスピタリティ	共著	令和4年9月(2022年)	第42回看護科学学会学術集会(広島/Web)看護科学学会誌	市民と看護職者が、看護実践に求め、期待するホスピタリティを明らかにするとともに、市民と看護職者の差異を比較し考察することを目的に市民2000名、看護職者700名を対象にインターネット調査を行った。
3) 同期型オンラインを使用した育児支援活動を実践している助産師の活動に対する認識	共著	令和4年9月(2022年)	第63回日本母性衛生学会学術集会(神戸)母性衛生63巻3号P248	同期型オンラインを使用した育児支援活動に対する助産師の認識を明らかにするために、2020年以降オンラインによる両親学級や育児相談をおこなっている助産師5名に面接調査を行った。恵良真理子, 今村久美子, 青木智子, 藤村博恵, 大賀明子
4) 大学看護学部における「ホスピタリティ」教育の評価に関する研究—A 大学看護学部卒業生のインタビューから—	共著	令和4年8月	第26 回日本看護管理学会学術集会(福岡)	ホスピタリティを基盤におく看護学部教育の成果を解明することを目的に、看護部、社会人として、また看護実践における他校卒業生との差異をテーマにグループインタビューを行った。井上寛隆、大賀明子、鈴木浩美、笠井翔太

5) 褥婦の保健指導に関するニーズと出産施設で受けた保健指導内容に関する研究	共著	令和3年10月	第62回日本母性衛生学会学術集会(Web) 母性衛生62巻 3号P275	子育て中の母親が、出産施設で受けた保健指導の内容を明らかにし、効果的な保健指導と指導方法を検討するための基礎的資料を得ることを目的に、全国の0～3歳児の子育てをしている女性600名に対して、WEB調査を実施した。今村久美子、恵良真理子、太賀明子
(その他) 「がんとの共存」がんサバイバーの生活を豊かにする地域の取り組み-狭山市・川越市の企業活動の紹介	共著	令和5年3月	冊子公開 2023年3月	がんサバイバーの生活を豊かにできること、SDGsあらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保することを目指し、地域への社会貢献することを目的に、狭山市、川越市内に存在する企業にインタビューをおこない、がんサバイバーの生活を豊かにする商品取材し、小冊子「知ってほしい生活を豊かにするSAYAMAの会社のもつくり」を作成し情報提供した。小野智恵美、山岡栄里、大工原慈仁、太賀明子